



Title	ハゲタカOAにどう向きあうか
Author(s)	佐藤, 翔
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/73726
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「学術論文発表を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在」
@大阪大学
2020.01.24

ハゲタカOAに どう向き合うか

佐藤翔（同志社大学）



研究者氏名	佐藤翔
ハンドル	min2fly
URL	http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/
所属	同志社大学
部署	免許資格課程センター
職名	准教授
学位	修士（図書館情報学）(筑波大学), 博士（図書館情報学）(筑波大学)
科研費研究者番号	90707168
Twitter ID	min2fly

プロフィール

同志社大学免許資格課程センター准教授。図書館司書課程を主として担当。

ブログ「かたつむりは電子図書館の夢をみるか」（<http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/>）管理人。最近は全然、更新していませんが・・・。

研究キーワード

[オルトメトリクス\(3\)](#) , [公共図書館\(22\)](#) , [ブラウジング\(1\)](#) , [ログ分析\(2\)](#) , [情報行動\(19\)](#) , [視線追尾\(1\)](#) , [計量書誌学\(24\)](#) , [アウトソーシング\(6\)](#) , [機関リポジトリ\(7\)](#) , [学術情報流通\(21\)](#) , [大学図書館](#)

<http://researchmap.jp/min2fly/>

本日のお題

ハゲタカジャーナル

あるいは

粗悪学術誌

当日は毎日新聞：以下
の記事を投影

<https://mainichi.jp/articles/20181215/k00/00m/040/2190000c>

**ハゲタカ =
Predatory OA
とは？**

Predatory publishing

- 著者から掲載料（APC）を得ることを目的に
- 内容の審査や編集・校正等を行わず
- 論文を公開する雑誌（多くはOA雑誌）
 - Wikipedia英語版を抄訳
- “Predatory”の名付け親はJ. Beall氏
 - 「ハゲタカ」と訳したのは首都大・栗山氏

そもそもオープンアクセスとは

- 研究成果（主に査読業績）の自由な流通実現を目指す運動
- 主な手段は2つ：
 - リポジトリ公開（PMC・機関リポジトリ等）
 - オープンアクセス（OA）雑誌
 - 購読料以外のなんらかの方法で費用を賄う

そもそもオープンアクセスとは

- 研究成果（主に査読業績）の自由な流通実現を目指す運動
- 主な手段は2つ：
 - リポジトリ公開（PMC・機関リポジトリ等）
 - オープンアクセス（OA）雑誌
 - 購読料以外のなんらかの方法で費用を賄う
 - **ハゲタカはこの中的一种**

ハゲタカの蔓延

当日は以下のURL
の内容を投影

<https://www.enago.com/academy/growth-predatory-publishing-predatory-journals/>

当日は参考文献4)から
ハゲタカOA論文数・
割合の推移の図を投影

ハゲタカOA論文数・割合（ブラジルの場合） 4)

引用文献等への混入⁵⁾

- OMICS International発行誌の被引用を調査
- 250誌（54.5%）は他の雑誌から引用されている
- ハゲタカを引用しているシステムティックレビューも157本存在
 - うち137本は非ハゲタカ雑誌に掲載されている
- PMCに収録されている = PubMedの検索に出てくる例も

当日は毎日新聞：以下
の記事を投影

<https://mainichi.jp/articles/20180903/k00/00m/040/110000c>

ハゲタカOAへの 誤解と真の問題

誤解1 投稿料を取るところは怪しい？

- 投稿料 = APC (Article Processing Charge) は一般化したビジネスモデル
 - DOAJ (真っ当と目されるOA雑誌リスト) には**3,131**のAPCを徴収する雑誌が掲載されている (2018年時点)
- 著名・高評価な雑誌も多数存在
 - Nature Communications (IF 11.8～)
 - PLOS Medicine (IF 11.6～)
- **APC型のOA雑誌は問題ではない**

誤解2 「粗悪学術誌」は問題？（1）

- 粗悪＝「質が低い」こと
- 雑誌の「質」とは？
 - － 掲載論文の質？
 - － エディトリアルな質？

誤解2 「粗悪学術誌」は問題？（2）

- 質が「低い」雑誌は当たり前存在する
 - 査読はあるが比較的緩い
 - そもそも査読がない＝紀要
 - 運営・編集体制が整っていない
- 発表先の選択肢の一つとして必要なもの
 - 発展途上国等が自ら出す雑誌：成長を企図
 - 駆け出しの研究者・凄くはないが発表はしたい成果...

ハゲタカの真の問題：詐称査読

- 本当は査読をしていないのに「査読誌」を詐称
 - 「粗悪」ではなく「邪悪」、要は詐欺
 - OMICS訴訟もここを認定
- 投稿者を欺く：査読を受けられると思ったのに
- 読者を欺く：査読を受けたものと思ったのに
 - ここには評価者も含む

ハゲタカ問題の背景：査読の希少資源化

- 研究競争の熾烈化・発表圧力の増加
 - 求められるのは査読業績・・・投稿増加
 - 競争に伴い研究者は忙しく・・・査読謝絶の増加
 - 投稿者（中国・インドの増加）と査読者のアンバランス
- 査読を受けたいし早く結果が欲しい
 - 一流誌を通るほどではない・・・「一応、査読誌」くらいでもいい
 - この間隙が「ハゲタカ」に突かれた

ハゲタカOAへの 対策

対策 1 : ブラックリスト

- ハゲタカ出版者・雑誌をリスト化する
 - Beall's list (公開停止)
 - 有志が継承・更新している版が存在
 - <https://beallslist.weebly.com/>
- 問題点：正確に判定できるのか？
 - Scienceの実験：Beallリスト掲載誌の約18%は弾けた
 - 4～14%は非ハゲタカではないかという指摘もあった⁶⁾
 - 発展途上国に対するバイアスがある、という指摘も⁷⁾
 - 誤りは大きなリスクにもなる（まさにBeallが例）

対策２：ホワイトリスト

- 「ここならOK」をリスト化する
 - リストそのものを自作する
 - 特定のデータベース等収載を条件にする
- 問題点：ブラックリストと同じく「判定」
 - JCR採択誌（IFがある）でも後にハゲタカ扱いされた例も
 - PubMedも頼りにはならない
 - ある日、ハゲタカになる可能性も：「ハイジャック」
 - 「絶対大丈夫」だけだと厳しすぎるリストに？
- そもそも：重複していることがある！

対策3：チェックリスト方式

- 「これらに当てはまるのはOK」や「危ない」を示して各自に確認をお願いする
- Think. Check. Submit.
 - <https://thinkchecksubmit.org/>
 - <http://thinkchecksubmit.org/translations/japanese/>
- 問題：チェックリスト・項目が多すぎる？
 - 判定の責任を個人が負うだけ（誤判定は起こる）

対策 4：査読保証・証明システム

- 「査読がある」ことを（投稿以前から）確信できるシステムがあれば良い
- 具体策 1：オープン・ピア・レビュー
- 具体策 2：外部保証ツールの利用

オープン・ピア・レビュー

- 査読の過程を公開する試み
 - 査読者名
 - 査読コメントとその回答・改訂の過程
- 導入雑誌例：F1000、PLOS、PeerJ、Natureシリーズ（オプション）
- 査読の存在をほぼ確実に保証できる
- 導入例はまだまだわずか

当日はGates Open
Researchの画面例
を投影

外部保証ツール

- 第三者が査読の存在を担保する
- Peer Review Evaluationバッヂ
 - 査読システムからメタデータを収集・査読済みであることを示すバッヂを表示
 - 活動停止中・・・？（存続が確認できない）
- Publons
 - 査読登録サービス（査読レポートを登録できる）
 - 査読の業績化・査読者探しの容易化が主目的
 - 結果的に査読の存在を第三者が証明できる仕組みでもある

対策 4：査読保証・証明システム

- 「査読がある」ことを（投稿以前から）確信できるシステムがあれば良い
- 具体策 1：オープン・ピア・レビュー
- 具体策 2：外部保証ツールの利用
- 問題：現状、普及していない

万全の対策はない

対処は始まった
ばかり

ハゲタカOAの定義（OSF版）⁸⁾

- 学問を犠牲にしてでも自己の利益を優先するもの
- 特徴
 - 虚偽あるいは誤解を招く情報（の掲載・公開）
 - 編集・出版に関するベストプラクティスからの逸脱
 - 透明性の欠如
 - 攻撃的・無差別な勧誘
- **現状は定義を定めている段階！**
 - 出典：Nature 576, 210-212 (2019) doi: 10.1038/d41586-019-03759-y

引用・参考文献

- 引用文献

- 1) Davis, P. "Open access publisher accepts nonsense manuscript for dollars". The scholarly kitchen. 2009-06-10.
- 2) Bohannon, J. Who's afraid of peer review?. Science. 2013, 342(6154), p. 60-65.
- 3) 栗山正光. ハゲタカ出版社はゴールドOAの夢を見るか?. 月刊DRF. 2013, no.42.
- 4) Perlin, M. S. et al. Is predatory publishing a real threat? Evidence from a large database study. Scientometrics. 2018, 116(1), p.255-273.
- 5) Ross-White, Amanda et al. Predatory publications in evidence syntheses. Journal of the Medical Library Association. 2019, 107(1) p.57-61.
- 6) Crawford, L. Journals, "Journals" and Wannabes: Investigating The List. Cites & Insights. 2014, 14(7).
- 7) Berger, M. et al. Beyond Beall's List: Better understanding predatory publishers. College & Research Libraries News. 2015, 76(3).
- 8) Grudniewicz, A. et al. Predatory journals: no definition, no defence. Nature, 2019, (576), 210-212.

- その他参考文献

- 栗山正光. ハゲタカオープンアクセス出版社への警戒. 情報管理. 2015, 58(2), p.92-99.
- 佐藤翔. 査読の抱える問題とその対応策. 情報の科学と技術. 2016, 66(3), p.115-121.

min2fly@slis.doshisha.ac.jp

